

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 **新**文化財・地芝居小屋等観光推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 文化伝承課 伝統文化係 電話番号：058-272-1111 (内 3579)

E-mail: c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 13,007 千円 (前年度予算額：0 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	13,007	0	0	0	0	0	0	0	13,007
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

地芝居保存団体や地元行政等と連携し、定期公演への観光客の受け入れや舞台小屋を巡るといった体験プログラム等を行うとともに、周遊ルートに県内文化財を組み合わせた魅力あるツアー造成とし、地芝居の認知度向上及び文化財の周知を促進する。

### (2) 事業内容

- 地芝居と周辺文化財を組み合わせ複数の旅行商品の造成
- 各ツアーには、必ず美術館等の文化施設、及び芝居小屋を含む
- 専門家が同乗し、各施設で解説を行うほか、現地での特別見学会

### (3) 県負担・補助率の考え方

県単費

### (4) 類似事業の有無

- ・中山道・地歌舞伎観光支援事業 (観光企画課)

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	12,877	
報償費	30	入札時関連費用
旅費	100	入札時関連費用及び随行関連費用
合計	13,007	

#### 決定額の考え方

観光局にて役割を終えたと判断した事業であり、事業内容等の見直しもないことから、計上を見送ります

### 4 参考事項

#### (1) 事業主体及びその妥当性

- ・岐阜県文化財保存活用大綱（令和3年3月策定） ※文案の段階

第1章 本県の文化財の保存・活用の現状

5 本県の文化財を取り巻く状況

#### (3) 活用上の課題

文化財の価値を広く県民に周知するための県・市町村による活用が推進されてきたが、まだ十分なものとはいえない。

その原因としては、未指定文化財を含めた実態把握や調査・研究が不十分であり、文化財の価値が発信されていないことや、文化財保護部局がそれ以外の庁内部署等と連携した取組が少ないことがある。

これらの課題を解消し、地域の中高年・青年、児童・生徒などの子ども達のそれぞれに合わせた周知等を行い、より効果的な文化財の価値の発信を検討していく必要がある。

#### 第2章 文化財の保存・活用に関する方針と措置

##### 1 本県が目指す文化財の保存・活用の姿（方針）

##### (1) 文化財を“知る”ために

##### ③ 県民への文化財情報の発信

- ・子ども、青年、高齢者等の各年代に合わせた周知の充実。
- ・文化財を主体とした各種イベント等の充実。
- ・文化財を活用したユニークベニュー

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
文化財保存活用大綱における活用の推進の一環として、文化財と地芝居小屋を体験プログラム等を通して観光客等に周知し、文化財の保護・活用に資する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
県内文化財と地芝居小屋を巡る周遊バスツアーの開催件数	0 (R1)		0 (R2)	10 (R3)	-

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

### （前年度の成果）

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
（評価）  ○	岐阜県文化財保存活用大綱（案）では、県民への文化財情報の発信として、文化財を主体とした各種イベント等の充実を謳っており、当事業は必要性が高いと考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
（評価）  ○	周遊ルートに博物館・美術館、各種文化財及び地芝居小屋を複合的に組み込むことで、本県への観光誘客に資すると同時に、県内文化財の周知及び活用には有効性がある。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
（評価）  ○	中山道・地歌舞伎観光支援事業（観光企画課）で得られた成果に文化財を追加していくことで、効率的に事業を推進することが可能である。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験と見学、文化財の周知に効果的な周遊ルートを常に検討していく必要がある。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者（外国人、マスコミ等）ごとの効果的なルートの設定。</li> </ul>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	